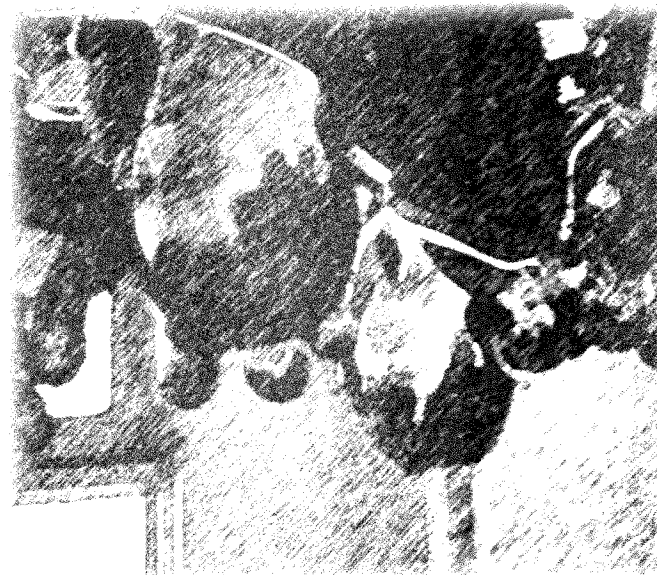


英夫の言葉「だから・・・」に込められた思いについての語り合い
「自分たちは日陰なぞありえないとこに日陰をつくら。このナインにはできないとはいないんだ。そんな気持ちでいっぱいでした。その気持ちは今でもどこかに残っていると思います。だから・・・」
この「だから・・・」の後に飲み込んだ英夫の思いとはどのようなものだろうか。



Y・Nの語り「今も優しい気持ちは正太郎にあると思う」

新道少年野球団のキャプテンとして活躍してきた正太郎が、他のナインたちの気持ちを打ち破り、常雄や英夫たちを傷つけたけど、今でも優しい気持ちは正太郎の心の中にあると思うから英夫たちは憎めなかったと思います。

K・Tの語り「仲間の思いは、正太郎に生き続けている」

陰をつくら正太郎が、英夫の苦みを自分の苦しみとして背負ったように、ナインだから、ナインとしてのかけがえのない仲間だから、その心はまだ正太郎の心の中に残っているという思いを込めていると思います。

M・Oの語り「正太郎への自信と信頼が英夫にあった」

ナインが集まれば陰のないところにも陰をつくら。そしてできないことはないんだという気持ちが今の正太郎に少しでも残っていたら、自分のやっていることがみんなに迷惑をかけているかに気づいてくれるという自信と信頼が英夫にあったと思います。

部落に対する偏見をなくす人間関係づくりにつながる語り合い
英夫の正太郎に対する思いについて語り合うことが、同和問題学習から培われたクラスの絆について考えることにつながっていきます。そして、その語り合いは、部落に対する偏見をなくす実践力を培っていく語り合いへとつながっていきます。

K・Uの語り「今も、『ナイン』の心は一つになっている」
英夫は今も、『ナイン』のみんなの心は一つになっていることを望んでいるんだと思います。
M・Mの語り「ナインの関係を絶対になくしていきたくない」
この「ナイン」にはできないことはないんだという強い気持ちがあつたんだと思います。それで僕もこの富田中学校へ来る授業の前に、このクラスみんなにはできないことはないんだと思って、みんなを信じて授業にきて実際にこの授業をしたら、やっぱりすごいなあと思っていました。
英夫の思いは、このナインの関係を絶対になくしていきたくないという気持ちと、ナインを信じていた自分の気持ちとを常雄や正太郎、他のナインも同じように思っていると思って、頑張りが続ける原動力になっていたんだと思います。

